

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「高島屋、野菜や果物をドライブスルーで販売」
- 2) 「オイシックスが“塚田農場”の鶏、自宅にお届け」
- 3) 「“おうちキャンプ”は“災害時の備え”になる一石二鳥」

1) 「高島屋、野菜や果物をドライブスルーで販売」

食品売り場の混雑を緩和するため、大手デパートが野菜や果物をドライブスルー方式で販売する取り組みを始めた。

この取り組みを始めたのは、食品売り場の営業を続けている高島屋だ。利用客が前日までに電話で商品を予約し、車でデパートの駐車場に行けば、あらかじめ袋詰めされた商品を受け取ることができる。販売される商品は、野菜と果物合わせて40種類で、千葉県の店舗では利用客が車に乗ったまま商品を受け取っていた。

利用した60代の女性は「レジ待ちで並ぶこともないので助かります」と話していた。高島屋柏店の高田明宏店長は「お客様の意識や行動が大きく変化中、安心して安全な買い物ができる環境を整えたい」と話す。同様の取り組みは岡山の店舗でも始めていて、デパートの臨時休業が続いている間、続けることにしている。

このほかにも横浜店、港南台店でもお弁当・お惣菜のドライブスルーを実施したりなど、「初」となるサービス展開が新型コロナを機に増えている。もちろん百貨店以外にもドライブスルーを始める企業は増えており、スーパーや道の駅、花屋までもが取り組みを初めている。今だけの一時的な場合もあれば、利便性を見出し継続的に行う企業もあるだろう。小売環境・消費行動が大きく変わろうとしていると感じた。
(2020/04/29 NHK NEWS WEB)

2) 「オイシックスが“塚田農場”の鶏、自宅にお届け」

新型コロナウイルスの影響で、業績悪化に苦しむ外食産業を支援する動きが異業種間で広がってきた。食品宅配のオイシックス・ラ・大地は自社通販サイトで居酒屋の看板メニューを販売。職業紹介サービスのグローアップ（東京・新宿）は休業飲食店の従業員の雇用支援を始めた。急な減収や雇用の調整に悩む飲食店を支援しつつ、将来の顧客開拓につなげる。

オイシックスは宅配サービス「Oisix」を通じて居酒屋「塚田農場」が扱う食材の販売を始めた。地鶏「黒さつま鶏」やかんきつ類の「日向夏」など3種類を3576円～4950円で扱う。いずれも塚田農場の看板メニューに使う食材で、契約農家から仕入れている。

エー・ピーカンパニーが運営する塚田農場は2日から全国で一斉休業している。食材が行き場を失い、日向夏だけでも10トン以上余る恐れがあった。オイシックスは日向夏を神奈川県海老名市にある物流倉庫に集荷し、消費者に届ける。黒さつま鶏はエー・ピーの子会社から発送している。

エー・ピーの担当者は「どの食材も質が高く、廃棄するのはもったいない。自宅で外食気分を味わってほしい」と呼びかける。オイシックスによると、黒さつま鶏は20日時点で5月上旬分まで予約が入る盛況ぶりだという。オイシックスは串カツ田中の商材も販売を始めた。

政府による緊急事態宣言の発令後、多くの外食店が時短営業や休業に追い込まれ、従業員の雇用維持に頭を悩ませている。グローアップは倒産や休業で職を失った従業員を一時的に受け入れる企業を紹介する「レンタル移籍サポート」を始めた。従業員は休業期間中は他社で働き、1~2年後に営業再開のめどが立てばもとの職場に戻ってもらう。

同社は休業企業の従業員と受け入れ企業の契約を仲介。休業店側の負担は無料で、受け入れ先の企業から紹介料を受け取る。価格は1人当たり月3万円。20日時点で従業員300人分の相談があり、当初の想定を上回っているという。

帝国データバンクによると、新型コロナが要因とされる企業の倒産件数は22日時点で79件あった。そのうち、飲食や観光関連企業が全体の6割を占める。危機的な状況を乗り越えようと他業種との連携が増えそうだ。

今の危機的な状況をうまく利用し、新たなサービスを始める企業が続々と登場している。これまで気付けなかった利点や効率に目をつけ、店側にも消費者側にも嬉しい「発見」ができていていると感じる。その反面、倒産に追い込まれる企業やどうにも動けず途方に暮れる経営者もいるのが現状だが、時間のある今を有効活用し、今後に繋いでいける施策を練らなければいけないと改めて感じさせられた。

(2020/04/29 日経MJ)

3) 「“おうちキャンプ”は“災害時の備え”になる一石二鳥」

行楽シーズン真ただ中でも、今年は新型コロナウイルスの影響で外出できずにストレスが溜まっている人も多いだろう。事態の収束に向けて長期化が避けられない状況にあるが、ここでは今年春からテレビや新聞などでよく取り上げられている「おうち(自宅)キャンプ」を紹介したい。筆者がお薦めする理由は、地震や台風など災害時の備えにもなる点だ。

家電量販店でもコーナーが充実しているアウトドアグッズだが、外出自粛の環境下でキャンプ場は予約でいっぱいというケースが多い。また屋外で3密が避けられるとはいえ、トイレや炊事設備は共同のため感染の危険性がないとはいえない。

そこで家で模擬キャンプというわけだ。家族だけで楽しめるし、ライトなものではカセットコンロを使った焼肉やたこ焼きから、中級や上級ではベランダでバーベキュー(電気式)、家の中にテントを張るといったものまで、それぞれの家庭に応じたレベルで実施できるメリットもある。

筆者のお薦めは、外出自粛で浮いたGWの予算を利用して、寝袋やカセットコンロ、電気式ランタンなどを購入して、丸一日、公共の電気・ガス・水道を使わない生活に挑戦してみることだ。これは実際に筆者が今年3月に「勤務している市と知事宛」に意見したもので、「多重災害への準備」としての模擬体験にもつながるからだ。

長期戦も予想される感染症だが、この状態で地震やこれからシーズンに入る台風などの自然災害が起こると避難所の利用もままならないだろう。誤解のないように記載しておく

が、筆者の本意は決して不安を煽るのではなく、少しでも可能性がある最悪の事態を避けるため、普段からの備えを再チェックしておきたいというところにある。

自宅で「おうちキャンプ」を実践しながら、徐々にレベルを上げていき、電気・ガス・水道を使わない生活を経験することで「災害の備えで不足するもの」も明らかになってくるだろう。

例えば、台風でよく品切れになる商品として、乾電池・懐中電灯・ガスボンベなどが挙げられる。これらの商品の備えや使用期限を各家庭がこまめに確認し、普段から備蓄しておけば、いざというときに店頭での品切れにも対応できる。

特に小さな子どもがいる家庭では「夜をランタンの灯りで過ごす生活」はワクワク感もあり、子どもの記憶にも良い思い出として残るだろう。万一の災害でライフラインがしばらく途絶えたときの恐怖も緩和してくれるはずだ。

これら乾電池をはじめ、カセットコンロ本体（ボンベはリアル店のみ）や電気式ランタン、寝袋、テントまで家電量販店のWebサイトで購入できるため、GWの最終日に家族揃って商品選びから始めてみてはいかがだろうか。

1日だけでも電気・水道・ガスの無い生活をしてみる、これは良いアイデアだと思った。休みや自宅にいる時間を活用して一度試してみたいと思う。災害の備えは何となくしているつもりでいるが、模擬的に体験してみるとできっと足りていない物が多く出てくると思う。1日できれば2日、と回数を重ねて慣れておくことでいざという時にきっとそれが役立つと思う。またそれをSNSなどで共有することで、様々なことが見えてくるのではないだろうか。

(2020/05/07 BCN)